



89. トヤマエビ^ト *Pandalus hypsinotus* Brandt

図版35

英名 coonstripe shrimp, humpback shrimp

露名 グレベンチャタヤ クレウエトカ
гребенчатая креветка

地方名(北海道) ボタンエビ、トラエビ、シロエビ、オオエビ、ダイエビ

漢字 とやまえび
富山蝦

【形態】 体はやや側扁し、頭胸甲^{とうきょうこう}*の背面が著しく隆起する。額角^{がつかく}*は甲長* (頭胸甲長)の約1.5倍で、前半部が上向きに強く反る。生時の体色は黄褐色から緑褐色で、腹部には赤褐色の横じま*がある。雄では第1腹肢^{ふくし}*の内肢^{ないし}*の先端が2つに分かれるが、雌では分かれず尖^{とが}るだけである。体長*は170mm前後になるが、まれに200mmという超特大のものもみられる。成長に伴って雄から雌へ性転換*するため、雌は雄に比べて大型である。近縁種のボタンエビ *Pandalus nipponensis*は腹部に横じまがなく、頭胸甲の背面があまり隆起せず、額角が強く上向かないことでトヤマエビと識別できる。

【生態】 北太平洋北部からベーリング海、オホーツク海および日本海に広く分布する。日本近海では、日本海の福井県から北海道沖、オホーツク海と太平洋の北海道沖に分布する。生息水深は100~400mで、日本海の武蔵堆^{むさしなたい}*北部では200~300mに、増毛沖^{ましげ}では100~120mに多い。オホーツク海と太平洋で

は150～200mに多いが、噴火湾の漁場は80～100mと浅い。

北海道沖日本海では産卵期が4～6月、ふ化期が3～5月である。太平洋の釧路沖では産卵期が5～6月、ふ化期が2～3月であるが、噴火湾では産卵期が7～9月、ふ化期が1～3月である。オホーツク海では産卵期とふ化期はともに4～8月である。日本海では、ふ化を終えた雌は1年間産卵しないが、太平洋では毎年産卵し、オホーツク海では両タイプがみられる。

成熟*した雌は雄と交尾*して産卵し、受精卵を腹肢に付着させて幼生*がふ化するまで半年～10ヵ月間抱卵*する。抱卵数*は甲長30～50mmの個体で1,000～1万粒。ふ化した幼生は全長*5～6mmで、1歳で甲長*20mmになり、2歳で26～27mm、3歳で32～33mm、4歳で35～36mm、5歳で40mm前後になる。日本海では甲長48mm前後に達し、寿命は8年と考えられている。性転換が始まる年齢は、噴火湾で2.5歳、オホーツク海で3.5歳、日本海では4.5歳が多い。主要な餌は、ヨコエビ類*、小型甲殻類、貝類、クモヒトデ類*などであるが、泥や砂も胃の中にみられる。